

ワークショップ結果

テーマ

… 小・中学校における地域住民・団体との協力・連携の現況

…小・中学校の地域住民・団体との協力・連携における課題
(地域学校協働活動の実現に向けたあるべき姿)

人材

運動会等の行事に地域人材が多く関わっている

何らかの取組は各校で出来ている

地域人材を生かしている学校もある

PTAの方の協力が大きい

農業体験など地域ならではの職業が生かされていた

道徳授業にて専門家の協力がある（例：ヒッポファミリークラブ）

虐待防止事業をやっているところが少ない

育成会や施設開放運営協議会（運協）など、地域の協力がある

民生委員や児童委員の協力が大きいと思う

育成会、民生委員、保護司会など様々な団体関わっている

東小の取組にこどもラジオ体操（夏期）が組まれている

クラスのみならず、清掃や動物の飼育など、地域の専門家の協力がある

まちかど保健室が、ひばりが丘中学校にしかない

学校支援に協力的な人材の発掘

外国からの生徒が増えると想定されるため、地域での協力が必要

子どもたちと関わりたいという人すべてが適任でないという声もある

学校の先生が多忙である

道徳教育もシラバス通りではなく地域人材の協力も必要

市内すべての中学校でまちかど保健室のような相談できる場所があるとよい

専門知識を持つ人材の発掘

不登校や学級崩壊など、難しい課題に対して地域住民の協力が必要

人材の発掘

PTAの内訳（どのような人が関わっているのか）が見えない

学校授業関連への協力はPTAや保護者の力が大きい

環境や美化については、保護者や地域団体が協力している

育成会やおやじの会など、同じメンバーがいつも活動している

安全や防災については、地域が協力している

見守りやパトロールなど、PTA以外の地域の協力がある

部活指導について、地域の協力がある

自治会を中心としたコミュニティがある

核になる人材の発掘が不十分である

地域に眠っている人材の発掘が必要

PTAやOBの協力が必要

地域人材の確保に向けた取組
(知り合いの紹介やアプリなど)

放課後サポーターなどの地域協力者の増加

コーディネーターとなる人材の育成が必要
(特に小・中学校の学区が重なる地域)

専門知識のある地域人材の協力
(人権問題など)

クラスや講座だけでなく、先生だけでは対応の難しい問題については地域の協力が必要

同窓会など、地域コミュニティの活性化

行政

市民協働に対する認識が浸透していない

市民に協働の必要性を理解してもらうための機会を設ける

他市の事例を基に、地域との連携・協働が教育に与える効果を特定し、関係者への啓発を行う

西東京市における地域学校協働活動の指針となるよう、社会教育委員の会議にて提言をまとめる

他市の事例を基に、教育長が地域学校協働活動の方向性を示す

地域学校協働活動に向けた計画を策定・実行する（段階的な普及計画）
（意識づくり→モデル校での実施→全校への普及）

モデル校を決定し、人材などの資源を集中する
（コミュニティスクールの指定に向けた取組など）

情報共有

良い事例や取組が共有されていない

地域協力者が豊富な学校から、他校への紹介できる方法の検討

市内での良い取組を関係者で共有すること

地域住民との協力・連携の内容を教育委員会以外に共有できていない

学校間での取組を共有する

学校と地域をつなぐ情報交換の場を増やす

地域協力者が参加しやすいような広報戦略

テーマ

テーマのバリエーションが少ない

テーマの充実に向けた支援

小・中学校で内容に違いがある

社会教育施設

社会教育施設の利用が少ない

社会教育施設との連携強化

近隣の児童館との連携は少ない
(中学校では柳沢中のみ)

社会教育施設の利用促進

児童館との連携
(市内全11か所)

学校差

小・中連携をしている事例があるのか

小・中学校共通での取組を自校内で終わらせない
(生かすための方法はないか)

登下校の見守り・パトロールは各校で実施されている

放課後子供教室にて多くの事業を実施している学校もある

放課後子供教室の充実(回数や内容)

取組に多様性がある

学校間での活動頻度の差を少なくする

学校間で取組の回数に差がある

学校・地域間で利用できる施設などの差がないようにする

地域で連携における差が大きい

できるだけ学校間での取組に差がないようにする

育成会や運協の活動内容や頻度は、学校間で差が生じている

実施が難しい学校へのサポート
(人材不足など)

小学校

市民団体の協力が多い
(企業や大学の協力が少ない)

社会科の連携事例はもっとある
のではないかと

先生の実践を紹介・共有する仕組み

連携・協働が盛んに行われている

学校授業関連での連携・協働が多い

各校とも連携・協働している
PTA…行事の手伝い
育成会…パトロール
連協…放課後子供教室
避難所運営協議会…防災

自転車安全教室が多くの学校で
実施されている

中学校

小学校ほど、地域との関わりが
少ない

部活動関連で地域と連携している
学校もある
(イベントでの合唱披露など)

取組事例の掘り起こしや共有

各校とも連携・協働している
PTA…行事の手伝い
育成会…ボランティア
避難所運営協議会…防災

地域行事への参加が多い
(ボランティア活動など)

先生の授業づくりの支援

専門家や企業との関わりがある

部活指導員の協力が多い

ビジョン

市全体で共有されるビジョンがない

モデル校の指定など、具体的な行動がない

教育長→校長→教員といった協働に向けた統一見解がない

革新的なカリキュラム開発に地域を巻き込もうという認識が薄い

コミュニティスクール指定に必要な事項の洗い出し
(学校支援に協力的な人材の確保など)

学校側の理解を得るための準備

大人も学校へ集まるための仕組みづくり
(楽しい体験の創出など)

より多くの人々が学校に足を運んでもらうための取組

市民への啓発活動を行う
(学校を中心とした地域づくりが行われていること)

地域団体の活動の見える化
(広報など)

ILE※の世界的な動きを理解すること
※Innovative Learning Environment

地域交流

まち探検を実施している
(小学校)

米づくりを実施している
(小学校)

時勢に合ったテーマがある
(小・中学校)

清掃など、ボランティア活動を行っている
(中学校)

地域住民の協力が少ない
(小学校)

地域との関わりはあるが、各学校内にとどまっている

地域活動が盛んである

おやじの会や地域の会との関わりがある

生徒の視野が広がる活動がある
(地域の老人ホームとの交流)

放課後カフェの実施により、地域との関わりが広がっている
(中学校)

地域コーディネーターとPTAはどう連携を図るか

地域人材の掘り起こしにかかる格差を少なくする

地域の大学や専門学校との連携が必要

学校と地域との関わりを統括している窓口の必要性